＜石尾台中学校区＞
学校統合に向けた第４回意見交換会　議事録

１　開催日時

令和８年４月 25 日（土）午前 10 時～正午

２　開催場所

東部市民センター　多目的室

３　参加者数　19 名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本　邦博
学校教育課	新たな学校づくり推進室	室長	梶田　傑
〃	〃	室長補佐	深見　健司
〃	〃	主査	安田　和志
〃	〃	主事	杉山　太一
〃		指導主事	田中　秀治

４　内容

⑴　学校統合に向けた検討について説明・意見交換

⑵　参加者どうしによる意見交換

５　会議資料

＜石尾台中学校区＞学校統合に向けた検討について

会議録（要点筆記）

午前10時　開会

１　開会

【教育部長あいさつ】

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、御礼申し上げます。

本日は参加人数が少ないですが、その分、皆様に率直な意見を言っていただけるだろうと思いますのでよろしくお願いします。

本市では、昭和60年度までに子どもたちの急増に対応するため、学校の設置を急ピッチで行ってきました。ところが、全国的に出生率が下がっている中、本市においても、子どもたちの数の減少が進んでいます。本市の小学生の人数について、ピークは昭和56年度で約30,600人でしたが、令和13年度には約13,300人まで減少すると推計しています。ピーク時に比べると約43%の人数になり、半分以下になっていきます。中学生はピークが昭和61年度で約15,300人でしたが、令和19年度では約6,200人になると推計しています。ピーク時の約41%の人数になり、半分以下になってしまいます。

こうした状況から、小中学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。子どもたちが一定の集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けるためには、一定の集団が必要だと考えています。このため、子どもたちが多くの友達や先生に出会い、人間関係の幅が広がるように、1学年に２学級以上あり、クラス替えができる規模であることが重要であると考えています。

これまで、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の５つの中学校区において、保護者や地域の方を対象にアンケートを実施し、意見交換会を開催してきたところです。これまでの意見交換会では、多くのご意見やご提案をいただいています。その中には、市の具体的な方針を示してほしいというご意見もいただいていますが、現時点では、市として具体的な方針を決定するタイミングとは考えておらず、まずは１人でも多くの方々に小中学校の現状や課題をご説明し、皆様で共有していただくとともに、皆様の意見をしっかりと受け止め、丁寧に進めていく時期であると考えています。他にも、高蔵寺ニュータウン全体で考えてほしいというご意見もいただきました。ニュータウン地区には４つの中学校区がありますので、広域的な視点から学校のあり方を検討する必要があると考えています。

さて、５つの中学校区で同時に検討を進めていますが、それぞれの地域にはそれぞれの地域性があり、検討の取組のスピード感も中学校区ごとで異なってきています。例え

ば、坂下中学校区については、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校の３つの小学校の統合に向けて、基本方針の策定を進めており、市民の皆様から広くご意見を伺うパブリックコメントという手続きを実施しました。また、藤山台中学校区と岩成台中学校区では合同の意見交換会を開催しています。

石尾台中学校区における第２回及び第３回意見交換会では、石尾台中学校区内の３つの小学校の統合では、将来、クラス替えができない学年が出てくるため、中学校区内だけの検討では適正規模の課題を解決できない状況であり、「隣接する中学校区を含めた学校統合に向けて検討を進める。」という市の考え方もお示ししました。

本日は、改めて現状や課題をお示しし、皆様からご意見をいただきたいと思います。将来を見据えて、今後の学校をどうしていくかということは、非常に難しい課題であると考えています。何よりも子どもたちにとってより良い教育環境の実現に向けて、ご参加いただいた皆様どうしで思いを交わし、実りある意見交換会となるように期待を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

２　学校統合に向けた検討について説明・意見交換

⑴　説明

【事務局】

Ⅰ　小中学校の適正規模等の取組について（資料１～４ページ）

・子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進めている。

・本市では、令和７年２月に「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定した。その中で、国の基準を参考に、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から、学校規模の区分を設けた。学級数の基準については、現行の１学級あたりの児童生徒数の基準で推計しており、小学１年生から中学２年生は 35 人、中学３年生は 40 人としている。なお、中学校について、愛知県では３年生は令和９年度以降、40 人学級から 35 人学級へ移行することとされており、令和９年度からは１学級 35 人で推計している。

・本市は、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、１学年に２学級以上あることが必要であると考えている。そこで、どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や、一部の学年でクラス替えができない「小規模校」につい

て、過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討することとしている。

・中学校区で見た場合に、将来すべての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の５つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。

・これまでの取組として、対象の中学校区においてアンケートを実施し、その後、対象の中学校区ごとに２回の意見交換会を開催した。また、石尾台中学校区では保護者を対象に第３回意見交換会を開催した。

Ⅱ　児童生徒数推計について（資料５～８ページ）

・中学校では令和 19 年度まで、小学校では令和 13 年度までは、令和７年度の０歳から５歳の子の実際の人口に基づき推計している。令和 22 年度は、市が人口の現状分析などから将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」と言われる計画から推計している。

・石尾台中学校は、令和７年度、生徒数 337 人、10 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数及び学級数は減少し、令和 18 年度からクラス替えができない学年がある「小規模」になると推定されるが、令和 22 年度では「やや小規模」であると推定される。

・玉川小学校は、令和７年度、児童数 195 人、８学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和９年度から、全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。

・石尾台小学校は、令和７年度、児童数 159 人、６学級で、学校規模は「過小規模」である。今後、児童数はさらに減少し、「過小規模」のまま推移すると推定される。

・押沢台小学校は、令和７年度、児童数 187 人、８学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 13 年度から、「過小規模」になると推定される。

・石尾台中学校区の小学校３校を統合した場合の合計は、令和 13 年度では、児童数 348 人、14 学級で、学校規模は「小規模」であり、令和 22 年度では、児童数 236 人、11 学級で「小規模」であると推定される。

石尾台中学校区の小学校３校を統合したとしても、令和 13 年度ではクラス替えができない学年があり、適正規模の課題が解決しないこととなる。

Ⅲ　アンケート結果について（資料９ページ）

・石尾台中学校区について、「１学年に２学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、「ぜひ進めるべき」又は「進める方がよい」と回答された「賛成」の方の割合は、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の保護

者全体では 54.7%となっている。地域の方も小学校単位で集計しており、地域の方は64.6%の方が賛成と回答している。また、石尾台中学校の保護者は、60.0%が賛成と回答している。

「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答された「反対」の方は、小学校全体の保護者で 18.2%、地域の方は 24.4%、石尾台中学校の保護者で 12.5%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響があるから」や「地域と学校の関係が希薄になるから」と多くの方が心配している。

Ⅳ　意見交換会でのご質問・ご意見について（資料 10～33 ページ）

・各学校の第１回意見交換会について、石尾台中学校では 10 月 17 日に開催し、参加者は 14 人であった。石尾台中学校での質問は「統合に関することについて」や「児童生徒数推計について」など、合計 10 件あった。

玉川小学校では 10 月 9 日に開催し、参加者は 22 人であった。玉川小学校での質問は「通学バスについて」や「統合に関することについて」など、合計 17 件あった。

石尾台小学校では 10 月 6 日に開催し、参加者は 22 人であった。石尾台小学校での質問は、「統合に関することについて」や「通学について」など、合計 17 件あった。

押沢台小学校は 10 月 7 日に開催し、参加者は 30 人であった。押沢台小学校での質問は、「魅力ある学校づくりについて」や「統合に関することについて」など、合計 28 件あった。

・第１回意見交換会の質疑応答の中から、抜粋して紹介する。

17 ページの質問№17「小中一貫校など新しい学校づくりに関する計画はあるのか。魅力的な学校ができれば、若い世代が流入するきっかけになると思う。」との質問では、「現時点では、具体的な計画は決まっていませんが、小中一貫校につきましても並行して調査しています。まちづくりに繋がるような魅力ある学校をつくるために皆様と一緒に検討を進めていきたいと考えています。」と回答している。

22 ページの質問№15「バスの詳細について、有料なのか、便数は多くあるのか、乗り遅れた子はどうするのか、学年が違って、帰る時間が異なったりする場合は対応してもらえるのか。現在、学校のイベントがあったときに保護者は車ではいけない。統合した後は大変になると思うが考えを聞きたい。」との質問では、「仮に統合することになった場合は、通学区域が広くなり、子どもの負担を考えるとバスの必要性について検討していくこととなります。バスを運用するのであれば、他市の事例も参考にしながら運営方法や便数などを検討していきます。また、駐車スペースについては、他の地区の保護者の方からも同じ意見をいただいており、新しい学校の検討の際に考えていきます。」と回答している。

・第２回意見交換会について、石尾台中学校区は 12 月 20 日に開催し、参加者は 41 人であった。第２回意見交換会での質問は、「アンケートについて」や「ニュータウン地区の現状について」、「通学区域の変更について」など、合計 19 件あった。
・第３回意見交換会は石尾台中学校区の保護者を対象に、２月 11 日に開催し、参加者は 12 人であった。第３回意見交換会での質問は、「今後の具体的な検討の進め方について」や「アンケートについて」、「意見交換会について」など、合計 16 件あった。
・第２回と第３回の意見交換会の質疑応答の中から、抜粋して紹介する。

27 ページの質問№11「統合を進めるにあたり、全員が納得することは難しいと思うが、子どもたち自身が納得するための丁寧な説明や市の思いを伝えることが必要であると思う。また跡地やバスなど何から着手するのかなど検討の優先順位を示してほしい。」との質問では、「一定の学校規模を確保することは、子どもたちにとって多くの友達と出会い、社会性を身に付けることにつながると考えています。そのため、子どもたちにも理解していただけるように、情報発信や実際に会って話をする場についても考えていきます。優先順位について、今後、統合の話が進むと跡地やバスなどの課題が出てくると思います。その際は、子どもたちのことを最優先に皆様と検討を進めていきたいと考えています。」と回答している。

28 ページの質問№16「意見交換会の開催など、今後の具体的なスケジュールを教えてほしい。」との質問では、「今後のスケジュールについて、皆様と議論を進めていく中で統合の検討を進めていくことになった場合、市が基本方針を定めます。その後の検討の中で、統合することになった場合は、学校の位置やバスの範囲など、具体的な統合の計画を作成していきます。新しい学校をつくるとなった場合は、工事などでそこから約５年はかかると考えています。」と回答している。

30 ページの質問№.１「石尾台中学校区は他の中学校区に比べて取組の進捗が遅れていると受け取ったが、スケジュールはどのように進んでいるのか」との質問では、「石尾台中学校区の統合に向けた検討について、現段階では、皆様からの意見を丁寧に聞く必要があると考えています。藤山台中学校区と岩成台中学校区については合同で意見交換会を開催しましたが、石尾台中学校区と高森台中学校区については、前の段階であり、この後、もう一度地域の方を含めた意見交換会を開催するなど、改めて市の考えを示した上で、次の段階に進めていきたいと考えています。」と回答している。

Ⅴ　石尾台中学校区における市の考え方について（資料 35～36 ページ）

・「１　石尾台中学校区の状況」について、「⑴　児童生徒数推計」から、

ア　令和 22 年度では、石尾台中学校は「やや小規模」であると推定され、中学校区内の全ての小学校は、全学年で学級数が１学級の「過小規模」であると推定される。また、

小学校については、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校を統合した場合でも「小規模」であると推定される。

イ　石尾台中学校区内では適正規模の課題の解決ができない。

・「⑵　アンケート結果」から、

ア　学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。

イ　保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。

ウ　学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。

・「⑶　地域の特性」として、

ア　ニュータウン地区内で、石尾台中学校区と高森台中学校区は隣接し、石尾台中学校は高森台中学校と直線距離で約 1.1 ㎞の距離に位置しており、他の中学校と比較して最も近い距離にある。

イ　中学校区全体の北部から南部にかけて傾斜がある地形で、登下校の手段に配慮する必要がある。

・「⑷　意見交換会」について、

石尾台中学校区は通学区域が広いため、通学バスの導入や校区の見直しについての質問があった。また、他の中学校区と比較して石尾台中学校区の検討の進捗状況を確認する質問や、まちの活性化も合わせて検討してほしいといった質問もあった。

・「２　ニュータウン地区の各中学校区の状況」について、

⑴　各中学校区の小中学校の児童生徒数推計をみると、小学校はそれぞれの中学校区内での統合では適正な規模を確保することができない。また、中学校も単独では将来的に適正な規模を確保することができない。

⑵　隣接する中学校区において、それぞれ中学校間の直線距離で最も近い組合せは、石尾台中学校と高森台中学校（約 1.1 ㎞）、藤山台中学校と岩成台中学校（約 0.9 ㎞）となっている。

⑶　民生委員・児童委員は、石尾台・高森台中学校区と藤山台・岩成台中学校区の２地区に分けて活動している。

・石尾台中学校区の状況とニュータウン地区の各中学校区の状況を踏まえ、本市の考え方については、石尾台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、隣接する中学校区の小中学校との学校統合に向けて検討を進める。

検討にあたって、

１　子どもたちにとって、また地域にとって、魅力ある学校となるように検討する。

２　隣接する中学校区として、高森台中学校区を対象に検討する。

3　保護者や地域の方、学校関係者と連携しながら、統合の必要性を含め、丁寧に検討を進める。

4　高森台中学校区との合同の意見交換会や懇談会の開催を検討する。

5　登下校について、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討する。

・石尾台中学校区と高森台中学校区の児童生徒数推計の合計について、石尾台中学校と高森台中学校の合計では、令和16年度まで「適正規模」で推移すると推定されるが、令和17年度には、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」になると推定される。

・玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校の６つの小学校の合計では、令和22年度においても「適正規模」を維持すると推定される。

⑵　意見交換

【質問１】（押沢台小学校区）

石尾台中学校と高森台中学校の統合が第一なのか、石尾台中学校区内の小学校３校の統合が第一なのかなど、統合の優先順位はどのように考えているのか。

【事務局】

市の基本的な考え方としては、クラス替えができる学校の規模を確保したいという思いがあります。石尾台中学校区内だけでの統合では適正規模の課題の解決が難しい状況にあると推計しているので、市としては中学校区を越えた学校統合の検討が必要であると考えています。しかし、石尾台中学校区と高森台中学校区を必ず統合すると決めているわけではありません。統合の必要性や、統合する場合は２つの中学校区なのか、各中学校区なのかということも含めて、今後の意見交換会や懇談会の中で皆様と検討を進めていきたいと考えています。現時点では２つの中学校区で統合を検討することが一番望ましいと考えています。

【質問２】（押沢台小学校区）

ニュータウンのまちづくりとして、東部地域については比較的、区画を大きくとった一軒家世帯が多く構成されている。石尾台中学校区と高森台中学校区の統合となると、URなどの地域と一緒になることがあると思う。今、住まわれている人たちは、落ち着いた住環境や小学校、中学校が落ち着いていることを理由に、この地域で暮らすことを選択していると聞く。そのようなことから、まちづくりの観点からも飛躍して逸脱してしまうのではないかという心配がある。

【事務局】

ご意見のとおり、ニュータウン地区の住環境を求めて住まわれていることは承知していますし、今後も大事にしていく必要があると考えています。一方で、これまでのまちづくりや歴史はありますが、将来の子どもたちのためにどうしていくべきかという観点も同時に考えていく必要があります。まちづくりと将来の子どもたちのことを両輪で考えていかなければいけない、非常に難しい課題であると思います。

子どもたちがいきいきと社会性を身に付けながら成長していく環境のために、皆様と一緒に考えながら解決策を見つけていくという議論を今後展開していきたいと考えています。皆様それぞれ思いがあると思いますが、引き続き皆様との議論や意見交換会を通して、最善の選択を見つけていけたら良いと思います。

【質問３】（押沢台小学校区）

子どもたちの将来に向けての考えという部分では、過小規模校が増えていく現状で、子どもたちの交友関係が損なわれるといったことは理解できると思う。

令和 22 年度の児童生徒数推計の数値が資料で示されているが、これまで「リ・ニュータウン計画」で人口の減少を食い止めるという考えもあり、今後、ニュータウン構想といった形で新しくされると思う。また、高森台中学校区では UR の団地の取り壊しといったこともあり、今後、児童生徒数推計が変わるのではないか。

【事務局】

令和 22 年度の推計については、ニュータウン構想や高森台地区の再開発により変わることはあると思います。例えば、令和７年度の時には、高森台小学校の令和８年度の１年生を 32 人の１クラスとして推計していましたが、実際は 36 人で２クラス分確保できる人数となりました。高森台テラスの影響が大きいと思いますが、今後も、高森台地区の再開発が進み若い世代の入居者が増えてくれば、児童生徒数が増えることは想定されます。UR が開発をどこまで進めるかということを公表していないので、分かりかねる部分もありますが、人口が増えていくということになれば、それにあわせた考え方に変える可能性は出てくると思います。

【質問４】（押沢台小学校区）

小学校６校を統合したいということだが、その場合、小学校までの距離がかなり長くなると思う。住宅を選定する理由として、学校の距離が近いといったことも１つであると思う。学校までの距離が長くなることでの影響についてどのように分析しているのか。

【事務局】

学校までの距離について、国の基準では小学校は半径４km、中学校は半径６kmであり、春日井市の基準では小学校は半径 1.5 km、中学校は半径２kmとしています。学校区が広くなれば、通学方法を検討していかなければならないと思います。

学校の距離が近いという魅力がなくなったときにどうするかは、魅力ある学校をつくっていくことで補っていきたいと考えています。例えば、小学校５校と中学校２校を統合してできた瀬戸市のにじの丘学園では、通学方法については、路線バスを活用して通学をしています。通学距離は長くなっているものの、地区内の区画整理の影響もあり、児童生徒数が増えて学校の増築をしている実態があります。魅力ある学校づくりをしていくことで、その学校がある地域を選んでいただくことに努めていけたら良いと考えています。

【質問５】（押沢台小学校区）

小学校６校の統合を市の方針として示しているが、今後どのような流れで進めていくのか。意見交換会を開催するにつれて、考え方がエスカレートしているように思える。市の考え方も少しずつ狭まってきていると思うが、今後の方向性について教えてほしい。

【事務局】

現在は、高森台中学校区との統合も視野に入れた、中学校区を超えた統合に向けての検討を進めています。市の考え方を１つの目安としてお示ししないと、地域の方や保護者の方の考えを聞くことができなくなってしまうため、１つの考えとしてお示ししています。今後、意見交換会や懇談会の中で、統合はまだ早いなどといった意見が多く出れば、市があらためて考えていく必要もあると思います。最終的には行政が決めなければいけませんが、行政だけで決めるわけにはいかないので、皆様からの意見をお聞きしながら統合の必要性も含めて、引き続き丁寧に進めていきたいと考えています。

【質問６】（押沢台小学校区）

資料 35 ページに民生委員は石尾台中学校区と高森台中学校区の合同で活動している記載があるが、以前に中学校区ごとに分ける話があった。役職が増えることもあり、現在は合同で民生委員児童委員協議会を開催しているが、実際の民生委員の活動は小学校区ごとで活動している。統合して中学校区が一緒になることで活動しやすい意味で資料に記載しているならば、実際の実態と異なる。

【事務局】

そのような実態を今回初めて聞きましたので、実際に民生委員を所管している福祉政策課にも話を聞いた上で、どういった活動が望ましいのかということも合わせて考えていきたいと思います。

【質問７】（玉川小学校区）

ニュータウン地区の話が多いが、玉川小学校区は農村部であり、唯一違うと思うので、その部分を含めて考えてほしい。また、通学距離について、玉野台から他の学校に通うとするとかなりの距離がある。そのような玉川小学校区の特性なども考えて検討してほしい。

【事務局】

玉川小学校区も石尾台中学校区の１つの小学校区であり、ニュータウン地区として一体的に捉え、まちづくりの観点も含めて検討していきます。

３　参加者どうしによる意見交換

１グループ４人から５人で円になり、参加者どうしで自由に発言し、意見交換を行った。各グループには職員が入り、進行・発表を行った。

参加者：17 人（玉川小学校区５人、石尾台小学校区６人、押沢台小学校区５人、
その他の小学校区１人）

テーマと主な意見は次のとおり

テーマ　統合に関する市の考え方について

【統合に関すること】

・自分の子どもが学級数の少ない小学校を卒業し、中学校、高校では学級数が大きな学校で多くの人と関わるため、ストレスを感じていた。そのため、小学校から様々な人と関わることも大事であると思う。
・市の方針をより具体的に示した方が、統合の検討も進めやすいと思う。
・仮に統合する場合、今と同じような学校ではなく、教育や施設など特色のある学校をつくってほしい。
・そもそも１学級 35 人ではなく、30 人が実現出来たら適正規模の考え方も変わると思う。
・高森台中学校区との統合について、先のことを考えれば仕方のないことだと思う。
・急いで統合する必要はないと思う。多くの子どもたちと学校生活を送ることが必要と考えているなら、学校の行事や授業を他の学校と合同で行えばよい。
・高蔵寺ニュータウンを２つのまとまりで考えればよいと思う。
・中学校を統合することは早いと思うので、まずは小学校を先に統合するべきである。

・統合するのではなく、小規模校として運営するなど、特色ある運営方法を実施してほしい。
・人間関係に悩んだ際に１学年１学級であるのは不安。複数の学級があることで環境をリセットできる環境が必要である。
・先生の数が多いほうが、子どもたちのことをしっかりと見てもらえる。そのため、統合には賛成。しかし、通学の面が心配である。
・学校が近く住みやすい場所で生活していたのに、統合で学区が広がることによって、保護者の目も行き届かなくなると思う。
・子どもたちは今の環境で十分に仲良くしている。仮に統合する場合、新しい環境に慣れることができるか不安であるため、現状のままで良いと思う。

【通学に関すること】
・中学校が統合するのは仕方がないと思う。中学生は通学について問題ないと思う。しかし、小学校の統合については、体力面などから通学の不安が残るので、小学校の統合は反対である。しかし、仮に統合する場合、路線バスを使うのではなく、貸し切りバスを用意するなど市が責任をもって準備してほしい。
・通学方法について、電動アシスト自転車や路線バス、スクールバスなど選択肢がたくさんあると良いと思う。
・学校は自宅から歩いて通える位置にないといけないと思う。バスで通学することは子どもにとって負担になると思う。

【まちづくりに関すること】
・石尾台小学校や押沢台小学校では地域のお祭りやイベントを開催している。学校統合によって、イベントがどうなるのかが分からなくて不安である。
・防災や福祉の観点など、ニュータウンのまちづくり全体で考える必要がある。
・玉野台には、学校が近く、静かな環境であるという理由で引っ越しをしてきた人が多くいる。そのため、統合により学校がなくなると、地域が廃れると思う。
・地域の交通網が縮小化されていくことや子どもたちの通学が不安。まちづくりについても考える必要がある。

【その他】
・先生が１学年に１人だけであると、先生の負担が大きいと思う。複数の先生がいる環境が必要であると思う。
・自分の地区の学校は残したいと多くの人が思っている。市はどのように進めていくのか不安に思う。

・統合によって学校数が少なくなり、リニューアル工事にかかる費用や維持管理費が削減できるなら、削減したお金を教育に関することに使ってほしい。
・学校統合が単純な児童生徒数の数合わせになってはいけない。統合によって学校規模は大きくなり、その学校に関係する地域の規模も大きくなるので、地域も一体となって考えていかなければならない。
・私の母校はすでになくなっているが、母校がなくなっても、皆の心の中にある。
・魅力ある学校とは何か。
・石尾台中学校区と高森台中学校区の野球チームは約 10 年前に統合している。
・交友関係に縛られることなく、学校生活を送ることができると思う。

【教育部長総括】

非常に多くの話題やキーワードが出たと思います。そして、なかなか全体の場で手を挙げて意見を言うことも難しい中、率直な気持ちをお聞かせいただけたと思います。皆様も当然感じているとは思いますが、この課題は非常に重たく、ハードルが高いものであり、１つひとつのことを細かくやっていくと進まなくなってしまいます。そのため、大まかな部分から方向性を決定し、少しずつ具体的な枝分かれの部分の議論を展開していければ良いと考えています。ある参加者の意見でもありましたが、全ての方の意見や要望を満たすことは現実的に難しいと思っています。そういった意味では、１人でも多くの方にご理解いただくように市として検討を進めていきますが、どこかのタイミングでは最適、最善と思われる市のビジョンをお示しする必要があると考えています。

今後の流れとしても、様々な選択肢があると考えています。説明の中でもお伝えしたとおり、統合するかどうかも含めて議論していく必要があります。実際に、統合しないという選択肢や今の中学校区の中で統合するという選択肢もあると思います。また、石尾台中学校区及び高森台中学校区の小学校６校で統合するということも１つの選択肢であると思います。ただ、決してどれかの選択肢に決定しているということではありません。実際の数字を見ると、一定の学校規模を保つには大掛かりな学校の統合も必要であるという課題を認識していただいただけでも良いのではないかと考えています。

魅力ある学校とは何かというご意見もありました。現在の学校施設は築 50 年、60 年と老朽化が進んでいます。学校によってはリニューアル工事ということで、さらに 40 年ほど使うために、大規模な改修を進めていますが、この中学校区では、適正規模が課題に挙がっています。リニューアル工事をしてさらに 40 年ほど学校施設をもたせるのか、統合によって新たな学校をつくるのかといったビジョンをお示しできていないので、イメージしにくいというお話もありましたが、仮に新しい学

校をつくるとなった場合、今の子どもたちや将来の子どもたちにとって良い学校とは何かという疑問があると思います。例えば、教室は現在、約 64 ㎡ですが、それが良いかどうかなど、将来を見据えた学校づくりについて考える良い機会になると思います。魅力ある学校をつくっていくことが、結果として魅力ある地域づくりにつながり、活気あふれるまちづくりができたら良いと考えています。

何が目的であるのかというご意見もありました。私たちは教育委員会であるので、そう言わざるを得ないのではなく、人として、子どもの親として、子どもたちのために学校がどうあるべきかという視点をぶれずに持っていたいですし、皆様にもその視点を大事にして検討に参加していただきたいと考えています。今の子どもたちや将来の子どもたちにとって何が良いのかということを考え、進めていきたいと思います。

最後に、このような形で意見交換会を開催していますが、少しでも多くの方にこの課題を共有していただいて、話題にしていただきたいと考えています。この意見交換会にも席がなくなるくらいに人が集まり、様々な議論をし合える雰囲気で気運を高めていけたら良いと考えていますので、またこのような機会があれば是非ご参加していただきたいと思います。特に今の子どもたちの保護者の方々がどう思われているかも大事にしていきたいと考えていますので、ぜひお声がけをお願いしたいと思います。

４　その他

【事務局】

・今後の進め方については、高森台中学校区の意見交換会の状況を踏まえてになるが、次回は両中学校区合同で意見交換する機会を設けたいと考えている。

・意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、学校のこれから通信に掲載し発行する。保護者の方へは Home＆School にてお知らせする。

５　閉会

正午　閉会